第９回「原子力の業務運営に係る点検・助言委員会」議事概要

１　日　　時　　平成２８年１０月７日（金）　１４：００～１７：２５

２　場　　所　　九州電力株式会社 本店

３　出 席 者　　野口委員長、石窪委員、出光委員、伊牟田委員、松田委員
（社内委員）佐藤委員、長野委員　（幹事）経営管理部長

４　議事概要

(1)　自主的・継続的な安全性向上等に係る最近の取組みについて（資料１）

o　自主的・継続的な安全性向上等に係る最近の取組み状況に関し、以下の内容について説明した。

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　原子力の安全性
　１　原子力発電所の取組み
　２　地域防災への取組み
　３　火山活動のモニタリング評価
Ⅲ　コミュニケーション
　１　お客さまの声等に基づく原子力に関する広報・コミュニケーションの方向性
　２　最近の取組み状況の評価と課題
　３　具体的な取組み内容
Ⅳ　コンプライアンスほか

o　野口委員長から、「新規制基準施行後、日本で最初に再稼働し、電力会社として熊本地震など厳しい環境の中、トラブルもなく安全に運転を継続してきたことに関しては、大きな功績であり、評価したい。しかし市民に安心をもたらす安全の実現は常に努力の積み重ねが大事であり、委員会としても安全の向上に実効性のある助言ができるように努めて行きたい」などの総括があった。

(2)　原子力安全性向上分科会、原子力コミュニケーション分科会　報告（資料２）

o　前回の委員会（平成２７年１０月開催）以降に開催した各分科会の概要等について報告した。

(3)　今後のスケジュール　（資料３）

o　原子力コミュニケーション分科会を本年度１２～３月頃（第３回)、原子力安全性向上分科会を本年度１～２月頃（第３回）及び３～４月頃（第４回）の開催を予定している。

〔主な意見等〕

o　別紙「第９回原子力の業務運営に係る点検・助言委員会での提言」参照

以　上

〔委員会の様子〕



別　紙

第９回 原子力の業務運営に係る点検・助言委員会 での提言

１　取組み全般

点検（評価）	○　新規制基準施行後、日本で最初に再稼働し、電力会社として熊本地震など厳しい環境の中、トラブルもなく安全に運転を継続してきたことに関しては、非常に良くやってきた。評価したい。 ○　鹿児島県知事からの要請に対する九電としての対応全般についても、本委員会での点検項目の一つとすべきだった。
助言	○　地域の方々が感じる原子力に対する不安は、原子力個別の技術の問題というより九電に対する信頼感の問題。それに対しては、原子力部門だけでなく九電が全社で取組んでいくあらゆる活動によって信頼を築いていくべき。 ○　技術的には問題ない判断であっても、その理由や説明の仕方が市民に伝わらないと市民に不安を与えたり、誤解を与えたりしてしまう。今後の原子力の業務運営にあたっては、より市民目線に立つことが大事。技術面を所管する原子力部門だけでなく、専門知識と市民感覚をあわせ持った危機管理部門等を含め、九電全体として様々な部門の考え方を統合し、判断していくことで変革を図ることが必要。
意見	○　鹿児島県では、知事が、専門家と川内原子力発電所の特別点検状況を視察する予定、また、原子力問題に関する有識者委員会を設置すると聞く。九電では、地震の耐性や桜島を含む火山噴火時の対応などの評価を既に行っており、そのことをあらゆる機会を活用して丁寧にお伝えし、安全性について理解を得るよう努力すべき。

※ 点検：総括的な評価、助言：委員会の総意としての助言、意見：委員からの個別意見

２　原子力の安全性

点検（評価）	○　地域防災に関して、発電所内の事故拡大防止が主たる責務とのこれまでの姿勢から、九電としてできる支援等を行う姿勢に一歩踏み出したことは、地域における安全取組みとして評価できる一歩である。 ○　防災訓練に関して、外部の意見等も参考にしながら訓練内容を精査し、高めていこうとする姿勢を今後も継続して頂きたい。
助言	○　緊急時対策棟に関して、新たなハードを作ることは大変良いことだが、対策棟の機能向上のためには、その設備を十分に活用できるよう訓練を行うなど、ソフト面の取組みも重要。あわせて、そのことを自発的に示してほしい。
意見	○　防災訓練や日々の訓練等も含め、訓練全体を安全確保のための枠組みとして提示し、その中で日々の訓練がどのように安全を担保しているかということを示すことが大事。その中で確認できたことだけでなく、今後実施して確認すべきことも整理した上で、しっかりと議論できる体制の中で訓練を展開して頂きたい。 ○　緊急時対策棟は、外部が汚染されたときに備えて１階は余裕のあるスペースを確保するよう今後検討頂きたい。 ○　防災訓練に関しては、第三者の視点や他社訓練での好事例等を反映したことで実際にどのような点が変わったのかが重要。 ○　重大事故等発生時の訓練に関しては、要員をしっかり確保して行っており良い取組み。今後も、実地で起こりうることを各種想定した訓練を行うなど、緊張感を保ち続ける方策を検討されるとなお良い。

※ 点検：総括的な評価、助言：委員会の総意としての助言、意見：委員からの個別意見

3　コミュニケーション

点検（評価）	○　原子力の安全性に関して、九電が「情報発信が必要」と考えたことについては、表現内容、迅速性など発信の仕方はその都度より良くしようと努力、工夫しており、伝えるための手法、媒体も広がっている。 ○　一方で、事実の公表にとどまっている面があり、その事実が何を意味しているか、どのようなメッセージを伝えたいかという点の考慮が不足していた。市民の不安や市民が何を知りたいのかとの視点がまだ不十分であり、更なる配慮が必要。 ○　鹿児島県知事の要請に対する取組みに関して。情報発信を見てみると、リーフレットは住民の方々への説明資料としてわかりやすい。一方、新聞広告は白黒で細かい文字が多く見やすさに欠けた。
助言	○　地域の方々が一番不安に思っている地震や火山に関しては、熊本地震以上の揺れや過去の巨大噴火規模等を想定した安全対策が既になされており、それらについてもっと分かりやすく発信することが大事。内容によっては、有識者など第三者からの客観的な情報発信が有効。 ○　情報発信の広がりに関しては、自ら発信できるフェイスブック等を活用してより多くの人が情報に接することができるよう、今後も注力すべき。特に災害時などにおいてはＳＮＳが有用だが、一方では誤った情報が拡散されることもあるため、九電が公式に発信した情報と明示されることが必要。
意見	○　リーフレット等、情報量に限りがあるツールによる情報発信の際は、更に詳しい情報を得たい人向けに、ホームページへのアクセス方法を合わせて紹介するなどの工夫が必要。 ○　情報発信に関しては、例えばガル数を発表する際など、一般の方々が具体的にイメージしやすいように、分かりやすい例えを付加するなど、受け手側にきちんと情報が届くようにすると良い。 ○　見学会は一般の方々が発電所の設備や九電の安全確保に向けた取組みに触れることを通じて不安や疑問の解消につながるものであり、コミュニケーションの有効策として活かしてほしい。そうした観点からは、見学者にお伝えしたいことだけでなく、見学者が知りたいと思っていることを考え、説明をスキルアップしていくことが重要。

※ 点検：総括的な評価、助言：委員会の総意としての助言、意見：委員からの個別意見

以　上